

## デ格デキゴト名詞による時間表現

— デ格の意識・逐語訳ダブル対訳コーパス<sup>1</sup> —

加藤 敏三 (信州大学) kinoene@shinshu-u.ac.jp

Sean Collin Mehmet (信州大学) sean@shinshu-u.ac.jp

## 1. プロジェクトの概要

【目的】 本研究の目的は次の2点である。(1)日本語の助詞デを英語にどう訳すのかを、文の動作とデ格名詞を意味的に分類することで機械的に翻訳できるよう分析する。(2)その分析の元となる日本語文(新聞社説)とその英訳を収集し、分類し、それを分析編と意識・逐語訳ダブル対訳コーパス編の2部からなる『デの訳し方辞典』として報告書にまとめる。

【意義・特徴】 新聞社説の英語訳は逐語訳ではない場合の方がはるかに多いため、英語母語話者が逐語訳を用意し、**意識と逐語訳を並べたダブル対訳コーパス**を構築する。これにより、英語教員や翻訳者が自信を持って仕事ができるようになり、また生徒・学生が英作文をする時の強力なサポートとなる。さらに、前置詞に関しては、機械翻訳の大幅な精度向上が期待できる。

本プロジェクトの動機は次の通りである。

A: 英語は前置詞が豊富にある

B: 日本語の後置詞は次の二種類

①意味があるもの: カラ, マデ, へ, ト

②意味がないもの: ニ 「第三の格」という機能しかない

デ 「副詞マーカ」という機能しかない<sup>2</sup>

AとBから、カラ、マデ、へ、ト(と一部のニ)以外の副詞的關係は全てデで表示されることになる。だから、カラ、マデ、へ、トは前置詞とほぼ一対一対応であるが、デは一対多対応であるため、デ格を英訳する時、どの前置詞を当てるかをいちいち考えなければならない。その負担を軽減するためのコーパスを作る。

2. デキゴト名詞<sup>3</sup>による時間表現

デは時間を表す名詞と共起する。例えば、(1)は『ウィズダム和英辞典』の「②時」にあげられている全ての例文のデ格であるが、(1)に見るように、全ての例文で名詞が時間そのものである。

(1) 8時で、74歳で、1時間で、今度の4月で、たった1週間で、ここ10年間で

しかしデ格が時間を表す事例は、(1)のような時間を表す名詞以外でも見られる。次の事例は、本プロジェクトのデータ(構築中)のうち、デ格が(1)のように時間表現そのものである事例もちろんあるが、(2)から(4)のように、デが時間を表す名詞を伴わないにも関わらず、事実上時間を指しているという事例が少なからずある。それらに共通するのは、デ格名詞が

<sup>1</sup> 本研究は JSPS 科研費 16K02917 の助成を受けたものです。

<sup>2</sup> 加藤(2007)参照。

<sup>3</sup> 影山(2011), 第2章の用語。そこではデキゴト名詞の代表例として「会議, 運動会, オリンピック, 試合, コンサート, 事故, 地震, 爆発」があげられている(p.40)。

デキゴトを表すものであるという点である。これらのデはいずれも「～の時に」と言い換えることができる。

### (2) at で訳される事例

2016\_4\_12 甘利氏は1月の辞任時の記者会見で、弁護士らによる事実関係の調査を継続したうえ、その結果について「しかるべきタイミングで公表する」と明言していた。

At a January press conference where Amari announced his resignation as a state minister, he pledged he would have lawyers and others investigate all the facts and would “make public at an appropriate time” the findings of the investigation.

2016\_5\_11 今月の主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）でも、課税対策は重要な議題になる。

At the Ise-Shima summit meeting of the Group of Seven major powers this month, taxation measures are a major item on the agenda.

### (3) in で訳される事例

2016\_6\_3 首相は、消費増税延期が「公約違反」との批判を受け入れ、「新しい判断」について参院選で「国民の信を問う」と強調した。

Acknowledging criticism after breaking a campaign pledge when he postponed the consumption tax hike, Abe has emphasized that he would “seek the people’s mandate” on his new decision in the upper house election.

2016\_6\_25 欧州連合（EU）残留か離脱かを問う英国の国民投票で、離脱支持が51・9％に達し、英国の脱退方針が決まった。

In a referendum on whether to remain in or leave the EU, the “Leave” camp secured 51.9 percent of the vote, paving the way for a Brexit.

### (4) during で訳される事例

2016\_4\_17 ラブロフ氏は来日前、一部メディアに対し、1956年の日ソ共同宣言について「平和条約交渉で領土問題を検討するとは書かれていない」などと主張した。

In an interview with certain media ahead of his visit to Japan, Lavrov said the 1956 Japan-Soviet Joint Declaration does not say that the territorial dispute will be discussed during negotiations on the envisioned peace treaty.

2016\_4\_17 ウクライナ情勢を巡ってロシアと対立するオバマ米大統領は、2月の首相との電話会談で、首相の訪露に懸念を伝え、延期を求めた。

U.S. President Barack Obama has confronted Putin over the Ukrainian conflict. Obama expressed concern over Abe’s envisaged Sochi visit during a telephone discussion in February, asking him to postpone it.

これらの事例では、日本語ではいずれも「デキゴト名詞+デ」でという表現であるが、そのデキゴト動詞の意味内容によって、英訳では at, in, during と訳し分けられている。では、デキゴト名詞+デの訳し分けはどのように行われるのであろうか。

## 3. デキゴト名詞+デの訳し分け

デキゴト名詞による時間表現については、『ウィズダム英和辞典』の at の項で

(a) 『時の1点』〈時刻・時点〉に, …から, 〈出来事〉の時[際]に, …する[した]時に

とデキゴトに言及があり, 「~at the graduation 卒業式の時に」というデキゴト名詞を使った例文をあげている。しかし上で確認したように, (2)から(4)で全て「~の時に」と言い換えられるため, 「~の時に, ~する時に」での言い換えは, デ格デキゴト名詞をどう訳すかの基準としては使えない。なお, 例えば『ジーニアス英和辞典』の at ではデキゴト名詞の言及はない。

(2)から(4)で言えば, at と in と during がどういう場合に使えるかは, それぞれの前置詞の意味内容から, 次のように, ある程度予測可能である。

(5) (2)から(4)の前置詞選択基準 (仮)

at は「点」であるため, デキゴトが時点として捉えられる時に使われる

in は「中」であるため, デキゴトが入れ物として見られる時に使われる

during は「期間」であるため, デキゴトが期間として捉えられる時に使われる

(2)では記者会見やサミットというデキゴトが「機会」という時点で捉えられており, (3)では選挙や投票というデキゴトの「中」で行われ, (4)では会談や交渉を「している間に」行われているという理由でこれらの前置詞が選択されているということは, 一応は言える。しかし, (3)の選挙や投票ももちろん「選挙・投票という時点で, 選挙・投票という機会に」と言えるため, (5)のままでは選択基準にはならない。そのため(5)を(6)のように改訂する。

(6) (2)から(4)の前置詞選択基準

(a) デキゴト名詞を【期間】として見るなら during を使え

(b) デキゴト名詞を【デキゴト】として見るなら,

(b1) デキゴトがある程度長く続くなら in を使え

(b2) そうでない単体のイベントなら at を使え

次の例のように, 同じ「東京オリンピックで」であっても, at と in の両方が可能であるような場合もある。

(7) For many years, he dreamed of winning a gold medal in karate ○at / ○in the Tokyo Olympic Games.

オリンピックは, オリンピック全体を見ればある程度長く続くデキゴトである。一方, (7)では空手の一連の試合だけを単体のイベントとしてイメージすることもできる。そのため, (6)の(b1)と(b2)のいずれもが可能であると言える。(8)においても, イベント全体として見ているなら in, 単体のイベントとして見ているなら at を選択していると言える。しかし(9)では毎週の授業であるので(b2)が適用されることはない。

(8) He sang a very old song of his own ○at / ○in the festival.

(9) He learned English ×at / ○in my *English For Overseas Students* class.

ところで、『ウィズダム英和辞典』の *during* の項にある次の記述は非常に興味深い。

(2) *during* も *in* もある事が「特定の期間中に」起きる・行われることを表すが, *party*, *meeting* など「出来事・行為」を表す語の場合には通例 *during* が用いられる

▶ The couple first met *during* [× *in*] the tour. ふたりはその旅行で初めて出会った。

ここで「出来事・行為」を表す語としてあげられている *party* と *meeting* は, 実はデキゴト名詞で *at* を使う際, 最も安全に使うことができるものである。

(10) He first met his wife ○*at* / ×*in* the party.

(11) I first ate inago ○*at* / ×*in* Kumi's barbecue party.

(10)と(11)においては, パーティーというデキゴトは, あまり長く続かない単体のイベントであるため, 本発表の見方では, (6b1)ではなく(6b2)が発動されているという説明になる。これに対するサポートは, 次のデータから得られる。

(12) A: Where did he first meet his wife?

B: ○*At* the party.

×*In* the party.

(13) A: Where did he first beat his rival?

B: ○*At* the match.

×*In* the match. (cf. He first beat his rival ○*at* / ○*in* the match.)

(12)(13)のように, *at* で言えるデキゴトは, *where* で聞くことができる。これは(12)のパーティーや(13)の試合が単体のイベントとして捉えられるからであると考えられる。また次の対比も(6)の選択基準のサポートになる。(4)の「交渉」, 「会談」と「会議」, 「会見」を比べてみると, 前者はより動作的であり, 後者はよりイベント的である。そして, 前者では *at* は使えないが, 後者では *at* が好まれる。これは(6b2)の予測の通りである。

(14) 「交渉」, 「会談」 vs. 「会議」, 「会見」

より動作的

よりイベント的

×*at*

○*at*

#### 4. まとめ

デ格デキゴト名詞を時間表現で使う場合, 英語に訳す時にどの前置詞が使われるかについてはまとまった研究はなさそうであり, 辞書類での言及も乏しい。本発表では, デキゴトを期間として見る時には *during* を使い, 期間として見ない時には, (b1)デキゴトがある程度長く続くなら *in* を使い, (b2) そうでない単体のイベントなら *at* を使うということを提案した。

#### 引用文献

影山太郎編, 2011, 『日英対照 名詞の意味と構文』, 大修館書店

加藤鉦三 (2007) 「デには『意味』がない」, 影山太郎 (編) 『レキシコンフォーラム』 No.3, ひつじ書房, 229-314